

みんなのた場



石盤葺師
せきばんがきし

佐々木 信平さん
(73)

日本の文化財を支える 伝統技術の熟練技能者

石盤葺とは、薄い板状に割った粘板岩(玄昌石)を屋根に葺く技術で、天然スレート葺きとも呼ばれます。硯の材料でもある粘板岩は国内各地で採れますが、屋根材として使用できるのは、宮城県沿岸部・登米

地方で産出されるものだけです。石盤葺は手入れを施すことで、100年以上持つといわれています。

佐々木さんは、石盤葺の職人で国の選定保存技術者(文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な



石盤葺に取り組む佐々木さん

技術または技能を持つ技術者)として認定されています。

佐々木さんは今までに、「山口県旧県会議事堂」や「JR東京駅」などの日本各地の重要文化財の修復に従事し、雄勝地区では雄勝小・中学校や5月21日にオープンした「雄勝硯伝統産業会館」の外壁の石盤葺にも携わりました。

佐々木さんは元々大工でしたが、母親のいとこが東京の会社でスレート職人をやっており、やってみなにかと誘われたのがきっかけで、そこから30年以上、職人として日本の文化財を支えています。

しかし、近年のスレート葺き工事では、工場製品である石綿スレートなどを用いることが一般的であるため、本来の石盤葺における熟練技能者がほとんどおらず、後継者育成が一番の課題となっていました。そこで、佐々木さんは石盤葺の伝承をはかるため、講習会などを開催しつつ後継者を募り、現在は2人のお弟子さんがいます。

そんな佐々木さんの現在の目標は、「後継者を一人前に育て、文化財を守っていくこと」。弟子には基本的な事は教えるが、後は仕事を見て技を覚えてほしい。一から十まで教えても本人には身に付かないから」と語ってくれました。

佐々木さんやお弟子さんたちが、これからも日本の文化財を支え続けてくれることを願います。

石巻市立桜坂高等学校

桜坂だより

第13号

こんにちは、桜坂高等学校です。
6月1日からやっと学校生活がスタートしました!
新型コロナウイルス対策に取り組みながらの、新学期の様子をご紹介します!



5月の出校日に行われた3学年の進路指導も例年とは変わって、各クラスごとソーシャルディスタンスを保ちながら、プロジェクター越しの先生方のお話を聞く形になりました。
今後、このオンラインシステムは外部講師の講演会や進学・就職面接にも利用される予定です。



衣替えと同時に新学期が始まりました。
登校したらまず昇降口で服装検査&検温チェックです。



食や観光の復興に向けて懇談した(右から)平塚さん、萌江さん、佐藤所長

コロナ禍の食・観光復興に支援を

県東部地方振興事務所 観光大使・萌江さんに協力要請

県東部地方振興事務所の佐藤所長が6月1日、いしのまき観光大使でシンガー・ソングライターの萌江さんを県石巻合同庁舎に招いて懇談し、新型コロナウイルス感染症の影響で大打撃を受けている石巻地域の食や観光の復興に向け、県の検討している対応策への支援をお願いしました。

萌江さんは、観光大使としての昨年1年間の活動や今年4月にスタートしたラジオ番組などを紹介し、「石巻の食、場所、人の魅力を全国にPRできるように頑張ります」と支援への協力を快諾しました。萌江さんと一緒に来訪した石巻フードツーリズム研究会おでん部会の平塚部会長(山徳平塚水産代表取締役)は、おでん部会が5月24日に初めて開催したドライブスルー直売会の盛況ぶりを説明し「今後も石巻おでんを全国に広めたい」と熱く決意を語りました。

最後に、萌江さんが「ほやのマーチ」「石巻おでんのうた」など3曲を熱唱し、集まった約50人の県職員から大きな拍手を受けました。

Topic of town

まちの話題

雄勝 鯉のぼり 雄大な空を泳ぐ

大須崎灯台など4カ所に掲げる



例年、全国から寄付された鯉のぼりを、甚大な被害を受けた雄勝地区に掲げる活動を行っている「雄勝に鯉のぼりを泳がせる会」が、今年は4月26日から「雄勝ローズファクトリーガーデン」・「雄勝地区震災慰霊公園」・「大須崎灯台」・「雄勝拠点エリア」の4カ所に鯉のぼりを掲げました。



鯉のぼりの掲示は「雄勝に鯉のぼりを泳がせる会」と大須崎灯台を整備・管理している「大須灯台会おおすともしびかい」のメンバー、そして雄勝総合支所職員が協力して行いました。計50匹ほどの鯉のぼりは風に揺られ、雄大な雄勝の空を泳ぎました。

石巻 震災犠牲者の冥福を願う

渡波・浜松公園に慰霊碑を建立

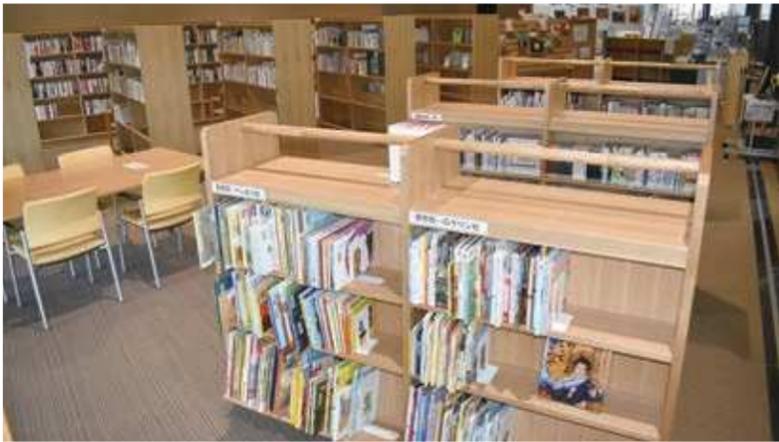


東日本大震災で犠牲になった渡波地区の519人の安らかな眠りを願いながら、震災の教訓を後世に伝承する「東日本大震災物故者慰霊碑」が松原町の浜松公園内に建立され、5月30日に現地で完成式が行われました。地元の4団体で構成する建立準備委員会が、地区住民や企業、関係者から募った約850万円で建立。浜松公園付近で高さ4.7メートルに達した大津波の様子や全国から寄せられた支援への感謝の文を刻んだ慰霊碑(高さ1.6メートル、幅1.9メートル)や慰霊塔(高さ3.95メートル)、寄付者銘板(高さ1メートル、幅0.8メートル)が設置されています。



北上 図書館分館 9年ぶりに復活

総合支所1階に開館



北上総合支所新庁舎1階の市図書館北上分館が5月19日に開館しました。新庁舎は4月13日に業務を始めましたが、分館は新型コロナウイルス感染症の影響で約1カ月遅れの開館となりました。広さ約124平方メートルで、およそ5,600冊の蔵書があります。開館時間は平日が午前10時～午後6時、土、日曜日と祝日は午前10時～午後5時。休館日は月曜日(祝日の場合はその翌日)と年末年始。旧分館が東日本大震災の津波で全壊してから9年ぶりの復活となり、分館では「子どもから大人まで多くの方に足を運んでいただきたい」とPRしています。

桃生 まろやかな味わいが自慢

「鹿島茶園」で桃生茶の収穫作業



檜崎の「鹿島茶園」で5月下旬から6月上旬まで、桃生茶の収穫作業が行われました。経営者の佐々木浩さんと近所の農家の男性2人が、鮮やかな緑色の茶葉を専用機械で摘み取り、檜崎地区内にある加工場に運び、蒸し、乾燥などの加工処理などをし、主に県内向けに出荷しました。桃生茶は近くを流れる北上川から昇る朝露に触れることでふくよかな香りと苦みの少ないまろやかな味わいになります。摘み取り開始が、立春から88日目一般的なお茶より20日ほど遅く、茶寿(108歳)にちなんだ縁起物の「百八茶」としても親しまれています。

